

平成26年度(平成25年度決算)事業評価シート(半田市議会)

委員会名 建設産業委員会

基本施策 (半田市の目指す将来の姿)	観光 (歴史、文化、産業などを生かした観光と市民のおもてなしにより、観光客が増えています。市民が観光資源について学び、観光客をもてなし、積極的に交流しています。市内や知多地域における周遊型観光が定着し、外国人観光客も増えています。)	部課等名	市民経済部商工観光課	評価表整理No	11-002
事務事業名	観光振興事業				

1 項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄に必ず記入してください。

評価項目	評価基準	評価点	判断理由・評価コメント
有効性 (基本施策に適合しているか)	①きわめて有効性が高い(85~100点)		○事業としてはイベントの実施と集客は効果があり、一定の有効性を評価する。
	②有効性が高い(69~84点)		
	③どちらかといえば有効性が高い(53~68点)	○	
	④どちらかといえば有効性が低い(37~52点)		
	⑤有効性が低い(21~36点)		
	⑥有効性がない(0~20点)		
53			
評価項目	評価基準	評価点	判断理由・評価コメント
効率性 (より効果的な改善が可能か)	①きわめて改善の必要がない(85~100点)		○観光における市の役割は関連団体とのコーディネーター役に徹するべきである。 ○観光PRができていない。 ○まちの駅など半田市のお土産品を買うことが出来るお店が必要だ。 ○どうやって外部から観光客を呼ぶかの仕組み作りが必要。
	②改善の余地は少ない(69~84点)		
	③どちらかといえば改善の余地は低い(53~68点)		
	④どちらかといえば改善の余地は高い(37~52点)		
	⑤改善の余地は多い(21~36点)		
	⑥改善の必要がある(0~20点)	○	
20			
評価項目	評価基準	評価点	判断理由・評価コメント
妥当性 (市が行わなければならないか)	①きわめて妥当性が高い(85~100点)		○市が行う場合の費用対効果の説明をすべき。 ○イベントは、民間の専門家にやらせてみて、現在の市の企画とどう変わるかを比較評価も必要。 ○半田市は観光を生業にしてきた街でない為、地元で観光に熱い思いのあるリーダーを育てることが困難。
	②妥当性が高い(69~84点)		
	③どちらかといえば妥当性が高い(53~68点)	○	
	④どちらかといえば妥当性が低い(37~52点)		
	⑤妥当性が低い(21~36点)		
	⑥妥当性がない(0~20点)		
60			

※改善及び提案内容は抽象的な表現は避け、具体的に数値等を用いて表現し、箇条書きにて記入してください。

事業改善と予算提案について	
事業改善	<p>○「山車、蔵、南吉、赤レンガ」というが、これらの定義は何か。蔵はどこまでの蔵を入れているのか曖昧なため、位置づけをはっきりすべき。</p> <p>○今優先すべきことは、一過性である人集めのイベントばかりでなく、「山車、蔵、南吉、赤レンガ」や中壱半六郎、春楼扇末広、小栗邸など地域資源の魅力を高める取組みを行うべき。また半田市の強みである酪農産業から、知多牛、知多豚、イチゴなどを観光資源化し、第6次産業に発展させるべき。(もくもくファームのような酪農を活かした観光に取り組むなど。)</p> <p>○短期間のイベントの集客効果も評価するが、リピートして頂ける継続的な観光客を増やすような観光基盤を整える事業をどう組み立てるかが本筋。</p> <p>○観光事業分野での半田市の位置づけを再検討する必要がある。赤レンガ建物のように市が観光事業を直接行うか。あるいは観光インフラ整備に留めるのか。またそもそも半田市は観光を産業とするのかを考えなければならない。商工観光課はたんなるイベント屋になっているのではないか。</p> <p>○税金を投じるのであれば、観光事業に取組む費用対効果を検証すべきだ。</p> <p>○現在やっている観光事業の費用対効果を調査し、税金を使うことの妥当性を説明する。</p> <p>○商工観光課だけでは難題である。長浜や倉敷のように国の補助金を活用しながらタイアップして実施することが、効果的。</p>
予算提案	<p>○ストックとしての地域資源の魅力を高める取り組みに対し予算措置を行う。</p> <p>○まちの駅を作り、半田の名産品を売る場所にする。</p>
少数意見	<p>○ハゼの売り出しや蔵の歌を作る。</p> <p>○セントレア利用のトランジット客を誘致する仕組みをつくる。</p> <p>○観光協会と同様の法人を作り、競争をさせ、民間ベースのよりよい観光事業を生み出す。</p>